

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 25日

事業所名 放課後等デイサービスわいわいはうす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		机は折りたたみ式。	学年で事業所を分ける事も視野にいれている。
	2	職員の配置数は適切である	7		職員の定着率を高められるようコミュニケーションを大切にしている。	適切に配置できている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		送迎車の座席がわかるように表示している。見える収納で子ども達にもわかりやすくしている。	物件は2階建てなので、階段には手すりを設置している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		毎日こまめに掃除し、活動しやすいスペースを確保している。	活動スペースをゆったりとれるように、収納方法や広さにこだわった。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		送迎の前後で細かく振り返りなどを行い話し合っている。	スタッフミーティングを細めに行い職員と共に業務改善に努める。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		連絡帳に入れて回答をお願いしている。	保護者会は新型コロナウイルス対策の為行っていないが、アンケートを実施しご意見やご意向等を把握できるよう努める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		結果を職員にも周知し、改善点や改善方法を話し合っている。	ホームページで公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		第三者による外部評価は行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		新型コロナウイルス対策の為、zoomによる研修に参加。	外部研修に参加後、内部研修としてすみやかに職員に周知するよう努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		定期的にあセスメントの見直しを行っている。	アセスメントを行い、児童発達支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		チェックシートにして使用している。	使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		モニタリングを適宜行い、家族支援について話し合い支援を行っている。	子ども達が成長し、就労やその他の支援に向けて必要な移行支援がある場合には適切な支援が速やかに行えるよう他機関との連携に努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		毎日、支援計画記録をつけている。	支援計画記録表に個別支援計画書のコピーを挟んでおいて、児童発達支援計画に沿った支援ができるようにしている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		職員の意見を聞きながら、チームで行っている。	行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		職員で案を出し合っている。	学年や年齢により支援内容を変えるよう工夫する。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		一人一人の状況などを考慮し、無理なく活動できるよう計画を作成している。	作成できている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		特に外出やイベントでの支援は念入りに確認するよう努めている。	毎日の打合わせを職員全員が意識出来るよう、LINEを用いて全スタッフに共有している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		気になった点や、今後の注意点があれば必ず共有している。	公休のスタッフにも共有できるように、LINEを用いて行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		正しく記録をとることで、出勤していなかった職員も目を通せるようにしている。	必要であれば、支援記録表を改善変更するなどしていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		最低でも半年に一度のモニタリングを行っている。	半年未満でもモニタリングが必要であれば行う事もある。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		児童発達支援管理責任者が参加している。	可能であれば、管理者など2名体制で参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		連携が必要な場合はきちんととっている。	今後もっと連携できるよう努める。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		7		現在医療的ケアの必要な児童の利用はありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		7		現在医療的ケアの必要な児童の利用はありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		利用前に児童の状況や支援内容の確認を行っている。	今後も情報共有を継続する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		入学時や進級時、送迎時にはできるだけ担任との連携をとっている。	今後も情報共有を継続する。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		専門機関が開催する研修や、交流会に参加させてもらっている。	新型コロナウイルス対策により交流はむずかしかったが、オンラインなどを用いて今後も継続する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7		新型コロナウイルス対策により交流する機会はありませんでした。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		基幹相談支援センターとの交流に積極的に参加している。	新型コロナウイルス対策により交流はむずかしかったが、オンラインなどを用いて今後も継続する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡帳や送迎時にきちんとお伝えできるように努めている。	全ての保護者に連絡帳を有効に活用してもらえるよう努める。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		7		対応力の向上を図るための家族支援を行っているが、プログラム化できるよう努める。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に十分な時間をとってもらっている。	今後もきちんと説明を継続する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		児童発達支援管理責任者がきちんと説明し同意を得ている。	今後も継続する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		相談があった時や、モニタリング時に育児に関する助言などを行っている。	今後も継続する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		コロナ渦により保護者を年1回の開催にする。	今後はオンライン支援も視野に入れる必要がある。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		重要事項の説明時にきちんと案内するとともに、相談があった際はすぐに対応している。	今後も継続する。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		ホームページや公式Instagram、おたよりなどを定期的に発行している。	HPIはイベントごとに更新、Instagramは日々更新、おたよりは学期ごとに発行するよう心掛けている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		外出時の計画など外に持ち出す物には、個人が限定できないように記載するなどして注意を払う。	職員とも秘密保持誓約書を結び、細心の注意を払っている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		送迎時にその日の様子を伝えたり、ご家庭の様子など聞き意思の疎通を図っている。	今後も継続する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		現在はコロナ渦もあり行っていないが、今後地域住民を招待できる行事を検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		緊急時対応マニュアル等を、保護者向けマニュアルも作成し配布している。	新型コロナウイルス感染対策マニュアルも追加し配布した。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		毎月1回様々な避難訓練などを行っている。	今後も継続する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		契約時に必ず確認するようにしている。	今後も継続する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		7		現在、医師の指示書があるアレルギーの児童はいません。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハットの作成をし共有している。	事例集は放課後連絡会から発行されたものを共有しているが、事業所の事例集も今後作成していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待防止研修に参加し、定期的に虐待についての話し合いを行っている。	今後も継続する。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		重要事項説明書に身体拘束についてを記載している。	現在は身体拘束を行う必要がある児童の利用はないが、組織的な決定は必要と考えられるので、十分に説明できるように準備している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。